

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	有限会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム宮ノ里(2号館)		
所在地	〒025-0002 岩手県花巻市西宮野目第13地割121-2		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390500122-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者が有する能力に応じて、各種のお手伝い・ゲーム遊び・ラジオ体操・歌の時間を通じて介護職員との日常の触れ合いを大切に、「そっと寄り添う介護」「十人十色、千差万別の介護」を基本理念とし、ご入居者と職員が共に暮らし、穏やかな日常生活を送れるようよう努めております。
 ・健康管理の面では、総合花巻病院からの訪問診療(月1回)と訪問看護(週1回)を受けております。また、所長が看護師であり、ご入居者の体調把握には特に留意し、医療機関との連携を図っております。
 ・食事は、季節感を少しでも味わって頂くために、その時期の旬のものを取り入れたり、行事食を工夫しております。調理方法や食事介助も咀嚼や嚥下の状態に併せて、無理なく味わって頂けるように努めております。
 ・毎月の職員会議では、職員間の意思疎通や内部研修の機会を設け職員の資質向上を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム宮ノ里」は、2ユニットで、各ユニットの利用者の特徴や、持っている力を最大限に活かせるように日々努力している。8月に所長始め職員の大幅な人事異動があり、新人なども迎え入れ、理念等に掲げているように、「一人ひとりの利用者に出る事をやっていただく。」を応援する取り組みとして「手を出しすぎない」よう、それぞれに合った援助方法を模索しながら、実践している。昨年からは、医療との連携を図るための訪問診療、訪問看護を協力医療機関より支援を得て、健康面、医療面や安全面からも、情報の共有に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境での自立支援、安心と信頼の提供を重点とし、「そっと寄り添う介護」「十人十色・千差万別の介護」「ひとりひとりの利用者にとできることをやっていただく」の基本理念を念頭に日々のケアに取り組んでおります。	開設当時、1号館の理念は代表者が作り上げて、2号館は(H24年2月)全職員にアンケートを取り、ユニットリーダーが決め玄関、事務室、各ホールに掲げている「できる事をやっていただく」を基本としながら、日常生活の様子を記録しモニタリングで確認しながら出来ない事はさりげない手伝いをし、手を出し過ぎないケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属し、回覧版のやりとりや地域の清掃活動への参加、ご近所の方による畑や花壇作り、傾聴ボランティアの来所等地域の皆様との交流を図る努力を行っております。	事業所で実施した芋の子会に隣の方(1名)に参加して頂いた。独自の広報を地域(14~15軒)へ回覧できるよう家族から同意を頂いているところであり、地域との触れ合いや楽しめる交流を図りたいとしている。	地域との日常的な交流は難しいとしながらも、少しずつ関わりを深めようとしている。運営推進会議の意見等を得ながら検討し、地域との関係作りにより、一層取り組んでいく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実績を積み上げている段階にあり、地域の方々を招いての催しの開催等地域貢献に向けての活動を今後検討・実施できるよう努めて参ります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、行政代表、近隣住民代表、自治会代表、ご家族代表の各委員から貴重なご意見を頂戴し、ホームの運営や日々のケアに活かしております。	会議では人事異動による連絡網のあり方、公民館で防災訓練を実施した際に事業所でも参加して欲しいという要望があった。	構成員である地域の方との繋がりなどをきっかけに、近隣とのお付き合いの方法を模索しながら、議題(テーマ)のありかたを検討し、有効な活用がなされていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からは運営推進会議へも出席頂いております。ご家族からの相談やその他の課題解決に向け連絡を取り、協力関係の構築に努めております。	市の担当者は、運営推進会議の構成員となっており、利用者の暮らしぶり等は把握してくださっている。介護認定の変更、更新等は、家族から依頼があれば支所に出向いて、情報を提供している。介護保険法改正に伴っての制度上の解釈、運用等相談に乗って頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、玄関の施錠を含め行っておりません。言葉での拘束を含めホーム内の勉強会やマニュアル、毎日の申し送り等で職員相互で声を掛け合い、理解を深め、ケアの実践に努めております。	勉強会の実施と、毎月の職員会議や申し送り等で、ケアの振り返りを行っている。外部研修(1名)にも出席し、復命書で共有を図っている。職員全員にどんな行為が身体拘束なのかアンケートを取り、最も多かったのは言葉による抑制であったことから、対応の仕方などノートに記し、日々その都度注意し合い、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りにおいて所長からのお話や職員会議における勉強会やマニュアル、資料等でその理解が図られるよう努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者に成年後見制度を利用されている方もいらっしゃいます。各自資料等で学ぶ機会はもっておりますが、周知されている訳ではないので、今後勉強会の開催等で理解が深められるよう努めて参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書を活用し、理解を得ております。また、料金改定等時には事前に連絡、説明を行い、ご理解頂いた上で手続きを進めていくよう努めております。また、その後も不明な点等があれば、いつでもお話頂けるようその都度お伝えしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者やご家族が意見を出していたり、関係作りに努めることを前提とし、意見箱の設置やご家族面会時の情報交流により、ご意見・ご希望を頂戴し、できる限り運営に反映させるよう努力しております。	意見箱を設置しているが、現在のところ意見・要望はない。家族の面会時には、意見・要望を頂くようにしており、これから冬場に向かい、玄関に雪が落ちると危険という意見があり、雪止めをつけることにした。利用者の日々の様子や表情等や生活歴を見ながら把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や朝の申し送りにて、諸伝達事項の周知や職員の意見を聴取並びにそれを反映させる場としての機会を設けております。	事業所のスタッフ会議での意見や、本社でのアンケートの実施等で勤務体制の改善、職員の資格取得のための休暇などに取り組んでいる。家族に利用者の健康状態、日常生活の様子、行事などの写真をたくさん盛り込んだ「個人だより」の発行をするなど、喜ばれている。職員が日常生活を能率的、効率的に動けるよう場所を変えてみたり(例:洗濯干し場等)、創意工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談やアンケートにより勤務状況等に対する職員個々の意見を聴取し、よりよい就業環境の整備に向け、取り組み始めているところです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される各種研修があった場合は、できるだけ参加できるよう配慮は行っておりますが、職員の人員不足により難しいのが現状です。参加した場合は、資料によるものを含め伝達研修の機会を設け、職員のケアに対する資質向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の人員不足により、そのような機会が少ないのが現状ではありますが、極力参加して参りたいと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族がどのようなことで困っているのか、それを解決するために何をどの程度必要としているのか日々の関わりを大切に関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前及びその後の面会時やお電話でご家族それぞれの不安に思っておられることやご要望を傾聴し、関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を伺った上で「その時」必要なものを検討し、適切なサービス利用への対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通し、ご本人のできること、できないことを見極め、できることへの働きかけを行い、ご本人の役割、居場所づくりに努めております。介護しているという感覚ではなく、暮らしの中で共に支え合うという意識で支援を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や行事の際、またはお電話や毎月のケース記録や不定期ではありますが、通信の発行にてご入居者の情報を共有し、ご家族と一緒にご本人を支援していく関係づくりに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が引き続き図れるよう支援しております。また、ご家族や遠方からのお客様が来所される場合もあり、その時間を居室やホール等で楽しく過ごして頂けるよう努力しております。	入居前に、家族からの情報や入居後のアセスメント等で把握に努めている。(利用者の孫さんで、)幼い時から祖父に教わった神楽を、行事等に披露して頂いたり、長い間、杜氏をやってきたのが自慢であった方、魚の間屋で、長年加工食品を作った経験を活かして、今も魚のさばき方を教えてもらったりしている。また、知人、友人の来訪を歓迎し馴染みの関係が途切れないようにしている。馴染みの場所への外出は減少傾向にあるが、買い物や外食、ドライブ、周辺散歩等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースではご入居者同士の関係を大事にしながら、必要に応じ職員も間に関わることで、その場の雰囲気づくりを行っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へは面会に行ったり、ご家族等とは、電話にてその後の様子をお聞きし、病状回復の把握及び関係性の継続に努めております。また入居されていた方が逝去された折には、お別れに訪れたり構築した関係を大切にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、嗜好等把握するように努めております。ご本人からの確認が困難な場合は、ご家族の協力も頂きながら意向の把握に努めております。	センター方式を導入して利用者の意向の把握に努めている。常に理念との関わり方を大切にし、朝のミーティングで振り返りを行っている。家族との会話の中でも本人の好きな食べ物、嫌いなもの、材料の切り方、柔らかさまで細かく情報収集してケアに努めている。(職員が)出来ないと思い込んでいたことが、瞬間的に出来る事があり新たな能力の発見があり、記録し、共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の生活等ご家族面会時の情報交換を通し、これまでの生活歴等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態等を申し送りや日々の記録を活用し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度ケースカンファレンスを実施し、課題解決に向けケアのあり方を検討し実践へとつなげております。ご入居者本人、ご家族の意見や要望を伺い、3か月ごとにモニタリングを行い、職員間で協議した上で、介護計画を作成しております。	介護計画は、利用者の状態を踏まえ、職員間で協議して作成している。毎日のケア記録を基に3ヶ月ごとに計画の見直しを行い、現状に即したケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を時系列の個別記録と介護計画関連事項に記入し、ケアのあり方や計画の見直しに活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から各ご入居者の状況を確認して画一的にならないよう個人々の状況に合った支援を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域の方に参加して頂き、地域資源に関する情報を得られるように伺いながら豊かな暮らしが送れるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合花巻病院の訪問診療を利用しており、毎月1回医師に来所して頂き、診察を行っております。その他のかかりつけ医に関しましては、ご家族の協力を得ながら受診の対応を行っております。	それぞれのかかりつけ医に通院している方は5名ほどおり、他の方は協力医で受診し、訪問診療(月1回)、訪問看護(週1回)の受診支援に努めている。薬局との連携も図られており、薬も届けてもらっている。通院(眼科、歯科含)介助は、家族対応であるが、対応が難しい時は職員が対応している。利用者の状況報告や、受診記録を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のご入居者の体調変化をその都度ホーム内看護師である所長や訪問看護師に報告し、指示を仰ぎ適切な支援へとつなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方は、4名いらっしゃいました。入院中におきまして、職員が病院へ行ったり、ご家族とのお電話にてご本人の様態把握を行ってまいりました。入退院時につきましても、病院関係者と症状を含めて情報交換や相談を行ってまいりました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療体制に関する指針を作成し、ご家族等からご理解を頂いております。重度化した場合のあり方等入居時やその時期が訪れた際、具体的な方向性をその都度ご家族と話し合いを行っております。また、総合花巻病院との連携で訪問診療・看護を利用し、情報交換を行い、看取りについての体制づくりに努めているところです。	医療体制に関する指針は作成しており、家族に説明している。終末期に関しては利用者・家族の希望に添いたいとしているが、看取りについての学習などについては、今後の課題としている。看護師から職員向けの「最後のリーフレット」などの資料を頂き、参考にしたいと考えている。現在、入浴の対応の難しい方もいるが、創意工夫しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域を管轄する消防署のご協力を頂き、AED等の訓練を実施しております。職員の入れ替わりもありましたので、今後も繰り返し訓練を行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地域代表の方との情報交換や通報訓練、避難訓練を実施し、職員一同災害に対する意識を高め、行政や消防署のご指導の下、マニュアルを作成し、緊急時における対応が速やかに行えるよう努めております。夜間を想定しての避難訓練は実施していない為、今後計画し、実施する予定です。	7月に避難訓練を実施し、2回目は12月(または1月)に予定しているが、消防署員の立ち会いは、これからとしている。マニュアルの作成や、避難場所を明示したり、職員にフローチャートを渡しているが、勉強会はこれからの課題としている。訓練にはお隣りの方、運営推進会議の委員長、民生委員の協力を頂いている。備蓄は水、冷凍食品となっている。	事業所の防災対策については、特に地域の協力体制が不可欠であるので、近隣住民、地域の防災担当委員等の参画による防災体制の整備などについて、早期に検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての敬意と尊厳の保持を念頭にそれぞれのご入居者に理解しやすい言葉かけや対応に努めております。朝の申し送りや職員会議の機会を活用し、職員間でお互いに振り返りを行いながら適切な対応ができるよう努めております。	利用者に分かりやすい言葉かけとして、長い文章にならないよう、短い言葉で方言等を遣いながら、選択肢により選んで頂くなど、意識をして対話している。利用者の方々が集まるホールでのトイレの声かけなどは「〇〇さん一寸用事あるよー。」と日常生活の会話の中で心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に沿いながら過ごして頂けるよう努めております。自己決定することが困難なご入居者もいらっしゃいますが、日頃の声掛けも「～しませんか」と決定をご本人に促すよう意識し、ご支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活を通し、全ての要望を満たすことは困難ではありますが、ご入居者のペースで過ごせるように極力努めております。ご自身では、要望等をお話することが困難な方もいらっしゃいますが、表情や仕草等からその心情を察し、少しでも要望をくみ取れるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見る機会を設けることや行事等の際は、お化粧の時間が持てるよう配慮を行っております。床屋の利用や入浴時の着替え等できるだけご本人に選んで頂けるよう支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を多く取り入れた献立や行事食を取り入れ、食事の下準備や食器拭き等の後片づけと一緒に行って頂く等ご入居者それぞれのレベルに応じた声掛けにより、場面設定を行っております。	献立は1ヶ月を単位として、職員が作成している。全介助の方、一部介助の方、キザミ食、トロミ食と一人ひとりの体調に合わせて食事作りを行っている。行事食も楽しみの一つであり、代替食も準備している。畑も、近所の方からアドバイスを頂きながら収穫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に応じた食事形態にて提供し、摂取量は毎回記録に残し、摂取が進まない場合は無理強いせず、一日のトータルで必要摂取量をお取り頂くよう努めております。また、毎月体重測定を行い、体重の増減の把握に努め、食事の盛り付け量を調節しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。その方の状況に応じて、歯ブラシやスポンジブラシを使用して口腔内の清潔保持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄記録の間隔やご本人の言動を観察しながら必要な方へはトイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄支援に努めております。現在、日中においては布パンツ4名、リハビリパンツ4名、オムツ1名となっております。	自立でトイレに行く方が8名(ユニット合わせて)程おり、(トイレ)使用後の確認は必ず行っている。全介助の方が4名で、夜間も、不快にならないように定期的に交換(体位交換も実施)をするなど、支援に努めている。ポータブルトイレも夜間のみ使用の方、日中も使用の方もいるので、6名程の方が居室に置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察を行い、個別に対応しております。便秘予防の為、毎日ヤクルトや乳製品、加工りんごの提供を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調をみながら可能な限り、ご本人の意向に沿った時間での入浴が可能となるよう努めておりますが、入浴を好まない方もいらっしゃいますので、対応を工夫しながら支援しております。	入浴は週2回、午後から実施している。入浴に消極的な方には、ゆっくり時間をかけながら促してみたり、(対応)職員を替えたり、翌日に入浴する事もある。夏はシャワーのみや、体調に応じて足浴、清拭などの清潔保持に努めている。入浴中の1対1の会話の時間も大切で、思い出話(嫁時代の話など)が出た時は、記録し、それを思い出して行動して頂けるように、職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や疲労等の状況に応じて日中は適切な休息を取り入れることはありますが、夜間の安眠につながるよう様子をみながら行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な病院受診(訪問診療)にて現在の状況を医師に伝えながら、薬の処方を受けております。また、薬局との連携を図り、お薬についてのご指導を頂きながら副作用等お薬についての理解に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や気分を考慮した上で、日課に合わせた掃除、洗濯物たたみ等でその方の力を引き出せるよう支援しております。その時期に応じた行事を計画し、ご入居者の気分転換が図れる機会を設けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出ドライブ等を実施しております。天気が良い日は敷地内の散歩等気分転換のための外出の時間を設けております。また、ご家族とお墓参りや美容室等へ外出される方もいらっしゃいます。	身体機能の低下から、日常的な外出支援は難しい状態ではあるが、ホーム周辺の散歩や神社のお参り、おやつや買い物等に出かけている。家族の協力のもとお盆・お正月に帰宅する方もおり、四季折々のドライブの支援などにも努めている。これから冬場に向かい、室内の運動に心がけたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心の為に、お財布に現金を所持している方が1名いらっしゃいますが、実際そのお金を使用する機会がないのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を使用できる方はいらっしゃいませんが、ご希望時には職員介助のもと使用して頂き、ご家族等との会話ができるようご支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール壁面等に季節の植物や装飾を行い、季節感を取り入れる配慮を行っております。また、状況に応じた環境整備(温度、湿度、照明等)に配慮しております。音や光、風に敏感なご入居者がいらっしゃいますので、ご本人の表情や言動を観察しながら、対応しております。	1号館、2号館とそれぞれ利用者の特徴を活かしながら、ラジオ体操や誕生会を一緒に実施している。玄関には全職員の顔写真があり、来訪者に分かるようにしている。1号館には、ソファが随所に置かれ自由に休めるように配慮している。2号館には畳の小上がりがあり、利用者が洗濯物をたたんでいた。床暖房になっており、加湿器も設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者が希望される場所で過ごせるようやテレビ前的小上がりやソファ等の居場所づくりに配慮を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等をご持参頂くとともに、ご本人、ご家族の意向、状況を考慮した上で居室内の配置を変更する等、安全に過ごして頂けるよう努めております。また、写真を飾る等で居心地のよさを感じられるよう配慮しております。	事業所の固定したものとしては、ベッドがあり、それぞれ利用者が家族の写真、衣装ケース、花(リース)等があり、安心できるような過ごし方の工夫と、本人のかけがえのない時間を大切に出来るよう、そして納得して頂けるような居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには、大きく手作りの日めくりカレンダーを掲示したり、居室前にはお名前を大きく表示し、ご本人が居室の確認をしやすいよう配慮しております。トイレのドアにはわかりやすいよう「トイレ」と表示を行ったり、ご入居者それぞれの動線、生活習慣に応じた環境整備を行う等のご支援を行っております。		